

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和3年12月7日(火)
11時09分開会 12時02分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：口田邦男(欠席) 副委員長：山下清美
委員：深沼達生、川上 均、中河つる子、高橋政悦
議長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦
- 5 議 件
 - (1) 所管事務調査の申し出について
 - (2) 議会費に係る新年度予算について
 - ・道外の市町村行政調査について
 - ・清水町議会研修要綱に基づく研修について
 - (3) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

(1) 所管事務調査の申し出について

副委員長：全員揃っているのですが、時間ちょっと早いですが厚生文教常任委員会を開催する。

まず初めの案件については、所管事務調査の申し出について。これについては3月定例会までの所管事務調査について、申し出事項の協議をしたいと思う。特に、今回最終日16日にはこれを提案しないとならないので、できれば考えていただければと思う。今考えている部分、もしあれば出していただければと思う。申し出事項、どうであるか。1月2月の間である。高橋委員。

高橋委員：ちょっと遅いぐらいなのかも知れないけれども、実際に新体育館の設計等々の予算も今度の3月に上がってくると思う。実際のところ行政側の体育館の規模、その他もろもろ考え方というのがあった上での設計依頼だと思うので、その辺の調査をしておかないとちょっとタイミング的には遅いぐらいだと思うのだけれども。遅いは遅いなりにこの時期にやっておくべきなのかなという気はする。

副委員長：今、高橋委員から新体育館の設計が3月までにはきっと上がってくるだろうという想定のもとで、新体育館建設に関わっての所管事務調査にしてはどうか。まだ議会に対して明確にこういったという部分も示されていないし、規模、あるいはこういった機能という部分も示されていないので、そういった部分の調査ということでよろしかったか。あとほかに何か調査項目、考えている方。

川上委員：確かに今ちょっと話があった体育館については、体協にもきちんと今説明もないし、町民説明会をやる、町民の意見を聞くという町民の意見交換会もまだされていないということでは、全くどのように進んでいるのか分からないというのが現状である。そういった部分では、この内容についてちょっと調査してみるというのは必要じゃないかなと僕も思う。

以上である。

副委員長：川上委員からも町民単位の意見交換会、あと体協に対しても具体的な説明もまだなされていないという部分で、議会独自に調査してもいいのではないかという部分の話があった。

あと、中河委員、何かあれば。

中河委員：今2人の議員が言われたような内容をやるのもいいと思う。

副委員長：深沼委員はどうであるか。

深沼委員：まだ皆さん言われるように、体育館を建てるという形で、ある程度の年数を追った予定ぐらいまでは立っているが、その中身的な部分というのはまだ何も聞かされていない部分もあるので、皆さんと同じとか、自分のやりたい所管というのは全然まだ思っていないので、こういった部分でもいいのかなと思う。体育館に関してということ。

副委員長：ありがとう。

中河委員、深沼委員からはこの体育館の関係については何も示されていないので、調査するのもいいのではないかと。そしてほかの調査項目で今思い当たる部分は特に持ち合わせがないということでもよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：全体の中で2名の方からは特に体育館という意見が出され、また2名からは持ち合わせがなく体育館でいいのではないかなという話があった。この体育館に関わって調査する場合であると、ある程度どんなところという部分を持ち合わせながら検討していく必

要もあると思うが、こういったところという部分で何かお考えは。高橋委員、川上委員 あったら。

川上委員：やはり令和6年に建設、実際に運行するということでは、タイムスケジュールはもう決まっている中での今の進捗状況だと思う。それとあと、体育館の中身のコンセプトなどがまだ明確ではないと。いろいろな地域から体協だとか要望はしているが、それがどのように反映されているかっていうのをちょっと聞きたいと思う。

副委員長：それでは、いろいろな部分で体育館について見えない部分があるので、所管事務調査として担当課に聞きながら調査を進めるという形で今回実施するということでよろしいか。高橋委員、よろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：それでは、厚生文教としては体育館についてまだ議員として、それぞれ町の方々に示されている部分がないので、そして令和6年度という建設というタイムスケジュールがある中で、今現時点までのどういう方向なのかという部分を確認するという方法でもよろしいか。示せといても示されない部分もあると思うので、示せる部分について説明をいただいて、できれば清水町にとってどういった体育館がいいのかという部分も含めて協議できるような所管事務調査にしていくということでもよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：それでは新しい体育館についての調査項目の申し出。内容的には今全体でお話した、そして私からお話した部分の内容ということで進めさせていただく。皆さん、よろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：では、進める。局長、何かあれば。

事務局長：正式なタイトルをきちっと決めたいが。どういった。

副委員長：イメージとしては新体育館設計の進捗状況についてという感じかなと思う。

事務局長：清水体育館建設についての進捗状況。

副委員長：ちょうど設計が3月までにきつとまとめようとしているので、新体育館基本設計の進捗状況についてというタイトルかなと。新体育館の進捗状況、全部含めて、新体育館建設に向けての進捗状況についてということで。それぐらい。

高橋委員：今、関係者とは言わないけれども、体育館の新築に関して町民の中で噂になっているのが、令和6年10月にオープンというようなスケジュールが、きっとこれ町長がどこかで言ったんだと思うが、その話が無理だになっていうことに何か勝手にうわさが先走っていて、令和7年になるんじゃないかっていう話が。これも全部噂でしかないの、そういうことのスケジュールっていうところもしっかり調査しなければ、勝手にまたみんな噂話を広めてしまうので。そういったスケジュール的なこと。

あと、町民というか使用者というのか、体育館を使う側、管理する側、それぞれの思惑がどれだけ反映されるのか。また、資材高騰によって予算はどんなふうを考えているのか。それらも全て調査というか、今現時点で考えられること等々を調査できて、町民に向けてはうちの委員会で調査した結果を開示していきたいというような気がする。

川上委員：令和6年開設ということなので、その後の管理運営もどのように考えているかも含めて、調査の中に入れてもらいたいと思う。

副委員長：ただいま高橋委員、川上委員から令和6年10月の完成という部分が延期になるのではないかという話もあると、街なかでそういった話も聞いたことがあると。明確にいつという建設、何年何月という部分はまだ公表されていないと思うので、そこを、どこら辺を目処にしているのかと。それからの変わった部分という表明はまだされていないと。

そして、管理運営の方向性もまだ明確ではないという部分も含めてスケジュール感、そして全体像、それらも含めて管理運営に関わって、そして目処的な部分もある程度示してもらえればということも含めて、調査をするということによろしいか。

局長、そしてそんな方向で。そういった部分ではさっきの言葉で建設に関わっての進捗状況という部分で、いろいろな含みを持った中での調査項目ということで。皆さんそういったことによろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：そしてあと、局長何か確認することあるか。

事務局長：最終日に所管事務調査の調査項目、上げる文言としては「新体育館建設に向けての進捗状況について」ということで固めさせていただいてもよろしいか。

副委員長：よろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：そして、その調査項目で進めたいと思う。

それでは、(1) 番目の所管事務調査の申し出については以上で決定をしたいと思う。

(2) 議会費に係る新年度予算について

・道外の市町村行政調査について

副委員長：続いて、(2) 番目、議会費に関わる新年度予算についてということで、これについては前回の厚生文教常任委員会でもお話をさせていただいて、厚生文教常任委員会としてはいろいろな意見があったので、それを持って行って議会運営委員会の中で説明をさせていただいた。そういった中で、何で厚生文教で1つにまとめられないのだということちょっとお叱りの言葉もあったような気がする。そういった部分もあったので、今日についてはきちんと厚生文教常任委員会としてはどっちにするか、実施するか、しないか、予算に盛り込むか、盛り込まないかという部分の決定をさせていただきたいと思う。それを前提に協議を進めるが。

まず道外の行政視察、これについては委員会ごとに原則として任期中に1回ということで運用例の中であっている。予算の範囲内で行うことができるという運用例である。そしてまた、前回厚生文教常任委員会の中で話をしたが、そういった部分を持ち寄って議運の中で報告された中では、現時点でコロナを理由に予算を見送りの判断をするのはいかがかということで、議運の中で説明されていたのは、コロナを全面に打ち出して来年度は予算を見送ろうという部分で、という解釈をされていたような報告だった。そういった部分で、課題が生じれば補正予算を組むというのは現実的には難しいという、議運の中でのいろいろな意見があって、そして改めて来年度の実施の可否、調査項目、方面について常任委員会の考えをまとめていただくということで、議運の中で実質道外視察に行くとなれば調査項目、これが結構重要になってくるのかなと思う。

それから、どこに行くという部分はそれはまた次かなと。そして道外、道内、どちらに行くかという部分も、まずは調査項目から始まるのかなという気がする。

そういった部分で、厚生文教常任委員会としては調査項目をどうしていくか、来年度の中での調査項目。厚生文教のメンバーはこのまま来年度も引き続き1月までであるので、そういった部分で、1年間のスケジュールの中での調査項目も頭に描きながら来年度予算の計上をしていくという進め方でいきたいと思う。そういった中で、調査項目。今の参考資料ここにあるが、あくまで参考資料ということで議運の中で出ていた地域がこういった部分で出ていたということで、厚生文教の中にも出ていたが、こういった一応ス

スケジュール案は出ているが、あくまで参考資料として捉えていただきたいと思います。そういったことを踏まえて、道外視察、行政調査のあり方、それから委員会としての調査項目の具体的な表示、そういった部分も含めてお考えがあれば御意見をいただこうかなと思うが。きっと今言われてもまとまらないかなと思うので、少々時間を置いて頭の中を整理していただければなど。3分ほどちょっと頭の中を整理していただきたいと思います。

【休憩 11:29】

【再開 11:33】

副委員長：委員会を再開させていただいて、それぞれの御意見をいただければと思う。

高橋委員：問題になっているのは当然コロナ終息前であるということと、本来意味でいう議員任期の最終年であるということ。ということに絞られると思うが。うちの委員会としてせっかく題材がある、特にこの参考資料の2日目にある神山町については、本当にこの短期間のうちに2,000人増えて2,000人減ったっていう経験を持つ町であって、それに伴ううちの委員会としてはその人口増減に対して教育環境等々どんなふうに対応したのかという中身であったり、増えたことによってきっとそれに対応したまちづくりというのもあったと思うのだけれども。それら減ったときにそれがどうなったのかというところも見るとチャンス、こんな町ってきっと日本中探してもきっとここしかないぐらいなものだと思う。強いて言えば、2,000人も人口が増えた、3,000人も増えたって言ったら北海道には東川町っていうのがあって、東川町1回議会で行ったことがあるのだけれども、そのときは環境のすばらしさと町長三役の意気込みというのも本当にすごくて、とても参考になった町であったし。その逆に、今神山町がどんな状況なのかというのはとても議員としても勉強になるし。任期あと1年しかないと言ったって、行ってきたことによる報告、議員それぞれの報告しなければならなくなるが、そのみんなが感じ取ったこと、その報告によって次世代、もしくは次の期のときに活用できる中身であるというふうにすれば全ての問題は解決するかなと。

あとは、コロナの状況がどうなるか分からないけれども、せっかくの機会なのでそういうことを学びに行く、視察に行くというのは清水町にとって悪いことではないと考える。

副委員長：ただいま高橋委員からコロナ禍、議員の最終年という部分はあるが、ここに示された神山町については2,000人の増減を経験した町。そういった中で教育環境をどう対応したのかについて調査をしてはどうか。そして、道内での東川を見たときに、かなりトップの意気込みもあって、かなりいいまちづくりをしていたので、神山町のまちづくりも見てみたいなという。そして、最終年ではあるが、報告を次世代に向けて解決できるのではないか、報告書が。という部分もあって、行くことは悪いことではないのかという御意見でよろしかったか。

高橋委員からは道外視察について可能ではないかという意見をいただいた。あと、そのほか御意見あれば。

川上委員：せっかく行くのであればそういう部分を、直に見ていきたいと確かにある。

もう1点、ちょっと僕も調べた中で、今回の一般質問の中にも関係するが、男女共同参画の中で愛知の豊橋市、市だけでもものすごい取り組みをしている。何が違うかと言ったら、結局女性、要するに市から若い女性がいなくなっていくと、どんどんどんどん。なぜなのかということを考えて突き詰めていいたら、やっぱり女性が差別によって低賃金だったり安定して働く場がないとか、そういう女性が住みやすい環境にないから結局人口は若い女性がどんどん町から抜けていくと。そういう市であっても、であることか

ら、そういった若い女性を、やっぱりきちんと優遇するような施策をとりながら、市として、人口を増やしていくというまちづくりにつなげていくような取組をしているという。すごい画期的な取組やっているのだなという部分ではちょっと自治体の規模はちょっと違うけれども、そういうまちづくり、人口を増やしていくと。多分ここも十勝全体、北海道もそうだと思うが、結局どこの町村も女性、特に若い女性が入ってこない、ということになればやっぱりなかなかそこから出会いもないし結婚もなかなか進まないし、要するに子供も生まれないといった中では、いかに若い女性を呼び込むかというのが、今後のまちづくりの1つの方法としてあり得るのではないかとこの部分では、そういうところも見ていきたいなというようなことでは、今回の道外研修、それになるかほかのところになるかちょっと分からないが、そういう部分をちょっと見たいなという部分ではやっていたほうがいいのかというように思う。

副委員長：ただいま川上委員からそういった部分で、道外に行くとしたら愛知県豊橋市の男女共同参画、そういった部分での施策を進めて人口増に結び付けるまちづくりを行っている、そういった部分で清水町にも生かされる部分があるんじゃないか。そして、若い女性が清水に呼び込める状況を作るためにこういった項目で道外視察も可能ということで、道外視察、道内視察という部分ではちょっと、道外視察を進めてはどうか。調査項目についてはこういった項目。参考例はまた、これはなくなるけどもということよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：川上委員からただいま道外、参考資料はこれはもう除くという形の中で、愛知県豊橋市の男女共同参画、こういったまちづくり、人口増に結び付けた取り組みを視察したいという話があった。

あと、ほかの委員の方、何かあれば。厚生文教常任委員会としては調査項目を重要視しながら行きたいということで、議運の中でちょっと話をさせていただいたので、調査項目を含めて道内がいいのか、道外道内どっちがいいのかという部分も含めて御意見いただければと思う。そういったコロナ禍、議員の最終年という部分のそれぞれの考え方もあるが、そういった考え方もそれぞれ持っているという部分も含めて、お話をさせていただければと思う。深沼委員。

深沼委員：この間も話された神山町のことであるが、この何年かけてこの2,000人ぼんと増えて、何年で2,000人が減った。どういう世代的な部分で、若い世代なのか、増えたときも減ったときも、どういう世代が増えてどういう世代が急に減った理由というのは、すごい何で急に極端にこれだけ10年以上はかかっている部分だと思うが、その理由の発端。増えたことにもいろいろ多分理由があると思うんで、そういった部分をどういった部分なのか。そういう町村自体でそういうことがあるというのは逆にいろいろ清水町にも何か学ぶべき部分もひょっとしたらあるのかなという思いはあった。行く方向で。ただ、スケジュール的に結構いっぱいなので、どこか絞った形でもいいと思う。

副委員長：ただいまどういった増えた理由があるのか、どういった世代が増えたのかという部分を学んでもいいんじゃないかっていう話があったが、そういった部分の高橋委員、何かどういった増減の部分のどれぐらいの期間でどういった年代が多かったのかという部分がもし分かれば教えていただければと。

高橋委員：年代まではちょっと分からないが、期間は15年の間に2,000人増えて、2,000人減ってということなので。若干増えてきた要因が東川町に似ていて、東川町は木の椅子とかああいうのを作る職人がいっぱい入ってきたり、あと外国人の日本語学校のために生徒が東川町に住んだり、それにまつわる人たちが東川町に住んだりというような。あと水

道料がただだからとか、あそこに空港も近いし旭川近いということでベッドタウン的になったのかと聞いたら、そういうわけでもないと言っていたけれども。とにかく人口が今、3,000人で元いた人口の3分の1は移住してきた人だっていう話だから。それに似たようなことをきくとここはやったのだろうけれども、その後減ったっていうのはきくと何かトラブルがあったのだろうと思う。だからそこら辺は見極めないと、うちの進むべき道っていうのは見えてこないし。ただただ移住して、移住してって言うだけじゃあせっかく移住してきた人たちに対して責任も取れないし。だったらそこはちゃんと学ぶべきじゃないかなっていうふうに感じているし。ちょっとこの参考資料の中にある3日目の和歌山県というのが私もちょっとイメージがわからないので、これをさっき川上委員が言った名古屋に向けて走っても、きっとそれは実のある研修視察になるのではないかっていう気もするし、その辺を踏まえて。きっと出せる経費っていうのは事務局のほうで大体は分かると思うので、そこを上限にセットしてもらってどうか、ほかに中河委員とかがここをぜひ見たいとかっていうのがあれば、そこも寄っての委員会としての調査っていうことにできれば行く価値は全然あるのではないかっていう気はします。

副委員長：それでは、深沼委員、どういった期間か、そしてどういった部分か年代のほう分からないが、15年くらいの期間でそういった増減があったと。そして減った理由も含めて、高橋委員はちょっと聞いてみたいなという話があった。ということでよろしいか。

中河委員、何か御意見あれば。

中河委員：神山町というのがどこにあるか地図で見ると徳島市の南側の地域である、すぐ隣の。私はそこしか見てこなかったのもあれであるが。それからあと、川上さんが出した愛知の豊橋市というのも興味あるところで、私自身はどこかへ行きたいというのは別にないものであるから、さっき高橋委員が言われたように、行くのなら神山町と豊橋市両方見られれば1番いいかなと今聞いていて思った。男女共同参画のそれも興味あるところであるから。

以上である。

副委員長：神山町と豊橋市、両方見られればいいのではないかという御意見でよろしかったか。

(はいという声あり)

副委員長：そういった部分で、まず厚生文教常任委員会ではそういった視察の調査項目を明確にしながら行きたいなということを考えていたので、今、4名のお話をいただいた中では、2,000人増減する中での教育環境、これがどう対応したのかという部分をメインに調査をすると。そして、豊橋市の関係では男女共同参画をしっかりとやっている政策、厚生文教なものだから男女共同参画となると総務のほうの調査項目になるのかなという気がちょっとしたものであるから。これを厚生文教の調査項目として成り立つような項目事項になれば、さらに行くことが明確にできるのかなという。何か川上委員、いい厚生文教としての調査項目があれば。

高橋委員：それも男女のことであるが、うちの所管で関係する事業に対するその考え方等々をその調査するっていうのが1番手っ取り早いというか1番辻褃が合うというか。当然のようにまちづくりの一環ではあるけれども、教育部門、これっていうと例えば幼稚園、保育所とかは女性のほうが圧倒的に人数が多いわけであったり、その辺のバランスのこと、男女共同でということになると、それって豊橋市の場合は、男性保育士、とにかく先生の数も平等になっているのか。そのほかうちの所管に関わるころでのやつを視察してくるっていうのもそれぞれにはそれぞれの考え方っていうのもあるだろうし。そういうふうに進んでいくことでうちの所管になるのではないかなという気はします。

副委員長：ただいま高橋委員から補足事項があつて、教育分野、あるいは幼保に関わる行政部分

での取り組み、そういった中での男女共同参画をしている部分について項目としてできるだろうかという進め方で。そして、こういった部分で全体でいく部分のちょっと懸念が中河委員からあった。両委員会が一緒に行動するという部分でのリスクの部分を見ると、厚生文教常任委員会単独で、こういった項目を持ちながら調査してはいいのではないだろうかという方向性でもよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：実施に当たっては単独で行くという方向で検討していく方がリスクを回避できるのかなという部分がある。これはコロナ関わらずいろいろな部分でのリスク、そういった部分を考えてときに、道内であればいろいろな調整はつくかもしれないが、道外行ったときの全体で行ったときの調整がいろいろな部分の、何が起こるか分からない時代であるので、そういった部分のリスクを考えてときに厚生文教独自でこういった行動をしてはどうかというまとめでよろしかったか。いいか。

(はいという声あり)

副委員長：局長、こんなまとめでいい。調査項目については2項目ということでこの教育環境をどう対応したのか。そして、男女共同参画の中で教育、幼保、行政。そして、今の福祉関係の職員の関係もやはり男女共同参画となればいろいろな部分で、例えば保健師だったら結構女性が多いっていう部分がうちの町だったらあるし、そして介護だったらそれぞれいろいろな部分で協働でやっている部分があるんだけど。そういった部分の行政としての共同参画に取り組める形はあったのか。そして、特に人口的に呼び込んでいる産業的な部分で教育に関わる、福祉に関わる産業関係での男女共同参画、そういった広く共同参画の部分の視察調査していくという形でよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：局長、そんなまとめでよかったか。

それでは、来年度道外の市町村行政調査については、今言われたような視点を持って道外の行政調査を行い、来年度予算に計上していただくようにこれについてはお願いをしたいと思う。局長、そしたらそういった予算計上でこの厚生文教常任委員会独自として行きたいのでということで進めていただければと思う。

それで、道外の市町村行政調査についてはよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：そしたら、それについてはそういったまとめをさせていただいて。

・清水町議会研修要項に基づく研修について

副委員長：続いて、清水町議会研修要項に基づく研修、これはいろいろなアカデミーだとか研修所で行う研修であるが、そういった部分の予算措置を今3名で毎年やっているが、4年間の中で3名ずつという部分の配分で、そういった計画で私たちの任期始まったときからそういう計画で提案をされていた部分である。それで、昨年、一昨年とコロナ禍の中でなかなかそういった自主研修ができない状況にあった。そういった部分で新年度予算については、どういった3名分、3名分というのは当初の計画の中ではあるので、それ以外の部分についてどうしたらよいかという部分を委員会の中でちょっと協議できればと思う。何か名案があれば。前回の中でもこういった研修に関わってはそういった部分の予算を確保しながら行ける状況を作ってはどうかという部分が、この委員会としての中では話が多々あったような気がする。それで、個人が手を挙げれば行けるような状況を作ってはどうかという部分の話があったと思うが、前回そういった中で話をされて

いる。改めてまた確認をさせていただきたいと思う。御意見あれば。

高橋委員：前回も話題になったし、議運でも話題になっていたが、要するにこれ1つの研修を3名とするというのは4年間で全員行くっていうようなことだったので、ただ、ここ2年誰も行ってないというか行けなかった。だから、結局その3名枠を9名にするということになるとまた大所帯な話になるし。せいぜい去年の分の3名プラスして、去年の予算の倍をとるという考え方で、きっとそんなにならないかもしれないが。局長、それ例えば6名とか4名とかって限定すると、それで予算申請して実際行ったのは3名である、4名であると言っても特に問題はないということであれば、せいぜい理由として去年、一昨年行ってないから行きたかった議員さん6名みるよという形でまとめてもらったらどうかということではいかがか。

副委員長：ただいま高橋委員から昨年、一昨年行けなかったので、9名というのはちょっと大所帯になるので、6名の予算にしてはどうかっていう部分があって、それが4名であっても構わないのではないかと。

そういった中で、局長、いろいろな研修あるのだけれども、研修って何種類か選択はできる研修はあるのか。

事務局局長：今、研修要綱で書かれている部分については、常任委員会には出していなかったか、予算としては国際アカデミーのほうで、議員の研修所の泊まり込みの研修があるので、その予算を見て参加いただいているところであるので、またそういった経費を見て対応できるように準備をしていきたいというふうに思っている。

また、人数について、目安としてこれまでも実施していない分も含めて、少し幅を持ってということで6名というふうにいただいているので、この枠で予算をとって実際に実施するとき若干それを下回ったとしてもその部分は特に問題はないかと思う。大きい枠をがばっと取るというのはなかなか説明とともにそこまでみんな行くんですかという話になると、ちょっと難しいかなというところはあったが、倍の数というのが非常に説明も十分理解得られる部分かなと受け止めている。

副委員長：もう1点、局長、議員が行ける研修というのはそのアカデミー1種類で1つの機関しかないのか。

事務局局長：すまない、研修要項に何種類か書いてあったはずであるので、ちょっと後ほど確認をさせてくれ。

副委員長：3つぐらい。ということは、一緒に一度にぼんちと行くことも避けることはできるということ、3種類ぐらいあれば、分散して行くことも可能だと。それで、分散しても行けることも可能だという話があったので、いろいろなアカデミーがある。そういった中で、高橋委員からは6名ぐらい予算確保してはどうかという話があった。ほかの委員さん方、御意見あれば。

(なしという声あり)

副委員長：いいか。そしたら6名程度の予算を確保してはということで一致した意見ということでよろしいか。

(はいという声あり)

副委員長：そしたら、厚生文教としては6名で予算措置をしてもらって、アカデミーの中でもいろいろな選択肢があるので、一度に6名という部分を避けることもできるよと、分散することも可能だということ念頭において、そういった予算措置をしていくということで、議運のほうに提案をさせていただく。

これで、今日の委員会の項目については3点、今全て終わった。

(3) その他

副委員長：そのほか何かあれば。いいか。

(なしという声あり)

副委員長：いいか。それでは、委員会としてはこの3点以外には特にないということで、この委員会を閉じさせていただく。今日はどうもありがとう。

【閉会 12:02】